

- 進行・再発癌
 術後補助化学療法
 術前補助化学療法
 大量化学療法
 局所療法
 その他()

投与順	抗癌剤名(商品名・略号)	1日投与量	投与法	投与時間	投与日(d1, d8等)
1	ペルツズマブ(パージェタ:PEL)	初回 840 mg	div	60分	d1
2	ペルツズマブ(パージェタ:PEL)	2回目以降 420 mg	div	60分	d1
3	トラスツズマブ(ハーセプチン・HER)	初回 8 mg/kg	div	90分	d1
4	トラスツズマブ(ハーセプチン・HER)	2回目以降 6 mg/kg	div	90分	d1
5	パクリタキセル(パクリタキセル・PTX)	80mg/m ²	div	1時間	d1、8、15

1コース期間 (次コースまでの標準期間)	PEL, HER:3週間 PTX:4週間
総コース数	PDまたは、許容できない有害事象が発現するまで
コース間での休薬の規定	好中球数<1500/mm ³ 、血小板数<10万、LVEF<40%または、LVEF<40-45かつ、ベースラインからのLVEFの低下≥10%

減量規定・中止基準	【PEL、HER】 毒性などにより2サイクルを超えて投与延期する場合は中止。 infusiton reaction。 【PTX】 Grade3、4の血液毒性、高度な皮膚反応、アナフィラキシーショック
投与量の増量規定	前回から6週以上間があいた場合は、初回用量に戻る。
投与期間の短縮規定	なし
コースによる変化	・PEL:初回投与時は840 mg/body、2回目以降は420 mg/body、 ・HER:初回投与時は8 mg/kg、2回目以降は6 mg/kg ・2回目以降点滴時間変更可能:PEL、HERそれぞれ30分間、 経過観察30分間
1日の中での抗癌剤投与順	PEL→ HER → PTX
プレメディケーション・ポストメディケーション	【PEL、HER プレメディケーション】 Infusion reactionが発現した場合、軽度でかつ次回以降も施行場合は、H1、H2受容体拮抗薬、ステロイドの増量、アセトアミノフェンを考慮 【PTX プレメディケーション】 パクリタキセル投与30分前にデキサメタゾン6.6mg、ファモチジン20mg、レスタミン50mgの投与を完了すること。

患者条件

※CTCAE v4.0

- ・PS:0~2
- ・再発転移HER2陽性(IHC法3+、またはIHC法2+かつFISH陽性)
- ・主要臓器が保たれている症例
- ・心エコーでLVEFが50%以上

除外規定

禁忌(次の患者には投与しないこと)

- ・重篤な骨髄抑制のある患者や、感染症を合併している患者
- ・本剤又はポリソルベート80含有製剤に対し重篤な過敏症の既往歴のある患者
- ・妊婦又は妊娠している可能性のある婦人

実施上の注意点

- ・HER投与開始前には必ず患者の心機能を確認する。
- ・PELやHER投与開始24時間以内に現れるInfusion reactionのうち、アナフィラキシー様症状、肺障害等の重篤な副作用は特に安静時呼吸困難のある患者、又はその既往歴のある患者において重篤化しやすいので、患者の状態を十分に観察しながら慎重に投与する。
- ・うっ血性心不全、若しくは治療を要する重篤な不整脈のある患者又はその既往歴のある患者は心障害発現の可能性があるため注意する

パクリタキセル

・本剤投与時には、0.22ミクロン以下のメンブランフィルターを用いたインラインフィルターを通して投与すること。また、点滴用セット等で本剤の溶解液が接触する部分に、可塑剤としてDEHPを含有しているものの使用を避けること。

・本剤投与による重篤な過敏症状の発現を防止するため、本剤投与前に必ず前投薬を行うこと。前投薬としては本剤投与約12～14時間前及び約6～7時間前の2回、もしくは本剤投与約30分前の1回デキサメタゾンとして20mgを静脈内投与、本剤投与約30分前に塩酸ジフェンヒドรามミンとして50mgを経口投与、本剤投与約30分前にファモチジンとして20mgを静脈内投与すること。

d1	d8	d15	d22	d29	d36	d43	d50	d57	d64	d71	d78	d1(85)
PEL	-	-	PEL	-	-	PEL	-	-	PEL	-	-	PEL
HER	-	-	HER	-	-	HER	-	-	HER	-	-	HER
PTX	PTX	PTX	-	PTX	PTX	PTX	-	PTX	PTX	PTX	-	PTX